

平和を求めて

37

私の町の戦争跡

大田区の平和島といえは東京マランソンの折返し地点



大田区の平和島競艇場

東京捕虜収容所跡（大田区 平和島競艇場）

や競艇場で知られています。この一角は戦時中は日本軍に捕らえられた連合国軍兵士を収容する東京捕虜収容所でした。

国内の労働力のため外地の捕虜を連れてきた

太平洋戦争の初期は、東南アジアや西太平洋の占領地域で約35万人に及ぶ連合軍兵士を捕虜としました。そのうち約14万人（推定）の欧米人兵士は、現地に設



競艇場一角の平和観音像

すめている「POW研究会」(POW=Prisoner of War=戦争捕虜)の福林徹氏による「日本国内の捕虜収容所」などを参照させていただきました

人工島「平和島」

いまでも、平和島は陸続きですが、かつては陸地と橋でつながる人工島です。

一九三九年（昭和14）年、当時の東京府が認可をうけて京浜第二地区として埋め立てを開始。戦争が始まると埋め立ては中止されました。

置かれた捕虜収容所に収容されていきました。捕虜の中には現地徴集の植民地出身兵もいましたが、日本軍に反抗しないことを条件に釈放されたといえます。

全国四方所に本所おく捕虜収容所をつくった

一九四二（昭和17）年、日本政府は国内の労働力不足を補う手段として、海外の捕虜の一部を国内に移して使役する方針を決め、函館、東京、大阪、福岡の4ヶ所に本所を置く捕虜収容所を開設しました。

東京の捕虜収容所として一九四二（昭和17）年九月十二日、品川区東品川三丁目の京浜運河建設事務所

（昭和18）年七月二〇日、大森区入新井町（現在の大田区平和島）に移転したものです。同年八月一日には、品川区東品川三丁目の東京捕虜収容所本所の跡地には、病気の捕虜を収容するための品川捕虜病院が設立されました。

いそぐに東京捕虜収容所の英兵記録、元米国兵マイティンテール氏の「ああ、大森捕虜収容所―戦中、東京捕虜収容所の真相」などの著書がありますが、絶版などで入手することはできませんでした。

終戦後は一時期、日本の戦犯収容所に

この施設は、終戦後には一時東条英機らのA級戦犯が収容されました。